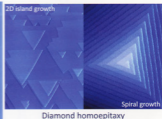


応用物理学会 薄膜・表面物理分科会

March 2014 ■ No.148

# News Letter

「薄膜の成長過程の解明と  
制御：薄膜のナノ構造を  
自由に制御するために」



あなたに褒められたくて

筑波大学数理解物質系 重川秀実



肌色のバンドエイドで隠してる踵のあかぎれを見つけてくれる、たった1人の人はもういない。お母さん。僕はあなたに褒められたくて、ただ、それだけで、あなたがいやがった背中に刺青を描れて、返り血浴びて、さいはての「網走番外地」、「幸福の黄色いハンカチ」の夕張炭鉱、雪の「八甲田山」。北極、南極、アラスカ、アフリカまで、三十数年かけ続けてこれました。別れて寂しいですね。いつも。どんな別れでも。あなたに代わって、褒めてくれる人を誰か見つけなきゃね。

俳優、高倉健の「あなたに褒められたくて」の結びに書かれた言葉です。「今の思いを自由に書いて頂ければ」と巻頭言を依頼されたとき、15年程前に読んだ科学とは無縁の、この本のタイトルが頭に浮かび、先のくだりをもう一度読みたくなって近くの本屋に出かけました。ページをめくって冒頭の一節にたどり着くと、子供の頃からのいろいろな場面が健さんの言葉に重なります。また、映画のポスターを見ただけで、表の華やかさではなく、「アカギレが足にできちよるね。もう寒いところで撮影をしないように会社の人に頼んでみたらどうね」と連絡する母親の思いは、本当に大切なことは何かを考えさせてくれます。

冬季オリンピックが開催され、テレビや新聞で結果が報道されています。小さい頃からの夢を追って世界で三つのメダルを目指す選手達。恵まれた才能と機会に加え、日々、強い向かい風も吹くであろう中、諦めず努力する力を持つがゆえですが、彼らにも、自身との戦いに勝つ信念をささえる暖かい眼差しや、メダルの向こうに大切な笑顔が見えるのでしょうか。一方、子供の頃褒めてもらったいろいろなことが年を取るにつれて自慢にならなくなり、得意でないことが自らを定める基準になっていく中で道を見失うことも多いのが世の中です。社会の仕組みや人の繋がりには時の運があり、迷う心に光をあてることのできるのも、時を越えた本能としての愛なのかもしれません。

日本の力を盛り返すには、多様な才能をうまく引き出し活かすことが必要で、誰もが役割を担って助け合い、果たした努力がきちんと評価され報われる幸せを感じることが出来る社会を創ることなのでしょう。その為には、今、当たり前とされていることが、また、されようとしていることが本当にあるべき姿なのか、たどり着くべき先を見つめ直し道を探すと併せ、夢を追う力を生む心のやりとりが大切という気がします。教育もしかり。

さて、昨年12月に、2011年143号の巻頭言で協力をお願いしましたACSIN (Atomically Controlled Surface, Interface and Nanostructures) とICSPM (International Colloquium on Scanning Probe Microscopy) 共催の国際会議 ACSIN-12&ICSPM21 を、667人 (海外224人) の参加者を得て無事終えることができました。各委員の忙しい中での細やかな働き、また皆さんの参加により、講演、賞、展示、パンケット、エクスカッションなど、充実したプログラムを進められ、海外からの参加者からも満足したとの声をよせてもらえる会議となりました。この場を借りて、心より感謝します。詳細は、会議のHPをご覧ください (<http://dora.bk.tsukuba.ac.jp/event/acsin12/>)。思い出の写真など掲載されています。

パソコンを閉じようとしたら、大河ドラマが流れ始めました。果たして、織田信長は、誰かの声を求めていたのでしょうか。時を越えることができるなら、一度、心の中を覗いてみたいものです。